

※黄色線は庁内サイトからのみアクセス出来るリンクです。



せたがや自治政策研究所 Newsletter 2025年12月号

SETAKEN NEWS



せたアカの様子は
こちら

▲せたがや版データアカデミーの様子
詳細は次ページ

Contents



CHECK!

せたがや版データアカデミーの様子	表紙
せたがや版データアカデミーの報告	2
社会調査マスターへの道《質的調査 編》	3
シンクタンク交流会の報告ほか	4
研究活動報告会告知ほか	5
『都市社会研究』の特集テーマについて	6

せたがや版データアカデミーの報告(全5回のうち1～2回まで)

研究員 内海大輔



新しい施策や事業を導入したいとき、みなさんはどのように上司に説明していますか？
「効果がありそうだからやってみましょう！」「隣の区もやってるので、うちもやってみましょう！」
…そんなふうに、思いつきで提案していませんか？
そしてその施策、本当に効果がありましたか？もしかして、やりっぱなしで振り返りをしていないのでは？
ちょっと怖いことを言ってしまいましたが、こんなふうに考えてみてください。もし上司に対して、
「この事業は、〇〇というエビデンスに基づいて効果があると確認されています。導入に向けてロジックモデルも作成しましたので、ご覧ください！」「この事業を導入した結果、〇〇のデータと△△のデータを組み合わせると、こんな成果が得られました。これは□□ということを示しています！」
…と説明できたら、すごくかっこよくないですか？そうなんです。
思いつきよりも、データに基づいて行動する方が、**かっこいいんです！**（筆者の意見）

そんなときに役立つ考え方が EBPM (Evidence Based Policy Making)。そして、世田谷区ではこのEBPMを学べる「せたがや版データアカデミー（以下、せたアカ）」を開催しています！（今年度は全5回）。ここでは、第1回～第2回までの講義内容をご紹介します。（資料や当日の様子は[コチラ](#)）

●第1回せたアカ（EBPM、ロジックモデル）

【概要】

EBPMの概要と必要性を学び、政策形成のツールとして「ロジックモデル」の作成方法を学習しました。

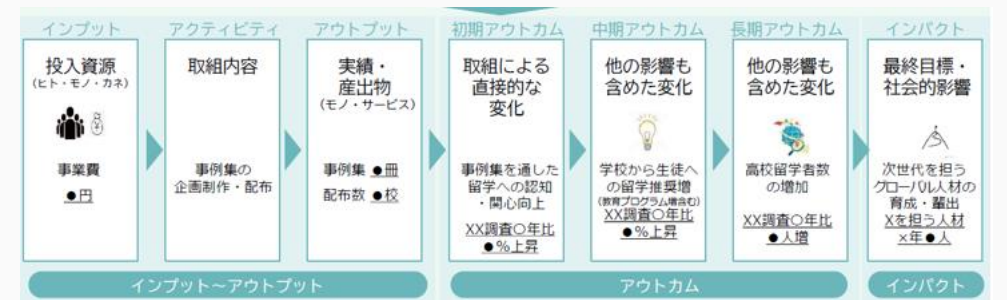
【EBPMとは】

EBPMとは、政策をその場限りのエピソードに頼るのではなく、政策目的を明確にしたうえで、合理的根拠（エビデンス）に基づいて企画・立案する考え方です（[内閣HP](#)）。

つまり、社会課題の解決に向けて、感覚や思い込みではなく、信頼できるデータや事実に基づいてより良い政策を考える取り組みです。政策効果の検証・評価の必要性が高まる中、EBPMの価値はますます重要になっています。

【ロジックモデルとは】

ロジックモデルは、政策の実施から目的達成までの論理的な因果関係を図式化したものです。政策課題を根拠に基づいて論理的に整理することで、ロジックの弱い部分を補強し、実現性の高い政策立案に役立ちます。



[文献] 文部科学省,2023,『ロジックモデル作成マニュアル』,
https://www.mext.go.jp/content/20230410-mxt_kanseisk01-100000155-3.pdf (2025.8.21参照)

●第2回せたアカ（PPDACサイクル、Problem・Plan）

【概要】

EBPMの考え方に基づいたフレームワーク「PPDACサイクル」を学び、その中の「Problem（問題発見）」と「Plan（仮説設定・調査計画）」のプロセスを演習を通じて学習しました。

【PPDACサイクルとは】

PPDACは、データ利活用を進めるためのフレームワークで、以下の5つのプロセスで構成されています。

1. Problem（問題発見）
2. Plan（仮説設定・調査計画）
3. Data（データ収集・整理）
4. Analysis（分析）
5. Conclusion（考察・結論）

【Problem（問題発見）】

現状を分析し、解決すべき問題を明確にします。目的と目標を定量的な指標で確認し、目標と現状のギャップから問題を具体化します。

目的→マッチョになりたい

目標→腕回り太さ40cm（マッチョの基準）

現状→腕回り38cm

問題→腕回りが2cm足りない（NOTマッチョ）

【Plan（仮説設定・調査計画）】

問題の原因となる仮説を立て、仮説を検証するために必要なデータを考えます。

仮説に対して施策を投じて効果があるかは不明なので、データを用いて検証することが重要です。

仮説→タンパク質が足りていない

データ→1日のたんぱく質摂取量

※その他のプロセスについては今後の講義をご参照ください。

●おわりに

今回ご紹介した内容以外にも、「データの在りか」や「データの種類」などについても講義で扱っています。

気になる方は、当日の様子を録画しておりますので、ぜひご覧ください。

また、せたアカは**毎年度開催予定**です。

ご興味のある方は、ぜひ次年度の参加をご検討ください！



第2回「『惑いの森』と『問い』」

今回は質的データや質的調査の特徴を確認しました。今回は、質的調査を実施していくにあたり重要になる「問い」について考えてみたいと思います。

さて、私たちは何らかの対象を探究していると、次第に自分の目に映る世界の姿が変わっていくような経験をすることがあります。

「これって、そういうことだったのか！」
「だとしたら.....これについても確認しないと」
「あっちも見てみないと」

このように、普段気にも留めなかった事実に関心を持ち始めることで、日常的な世界が未知なる事実があふれる「惑いの森」へと変貌することがあります。知れば知るほど、調べた方がよさそうなのがどんどん増えていく。こんな経験、みなさんにもあるのではないのでしょうか。とりわけ、予期しない出来事やデータと遭遇しがちな質的な調査では、往々にしてみられる現象かと思います。

ところが、探求の歩みを進めるたびに現れるこれらの未知なる事実には振り回されすぎると、肝心なことが忘れ去られてしまいます。それは、「自分はこの調査でそもそも何をしようとしていたのだっけ」という、元も子もない疑問とともに現れる**調査研究の目的**です。調査する者は、ときにこの「惑いの森」の遭難者となってしまいます(私は何度遭難したことか！)。調査する者にとって大事な原動力と実りを提供してくれるこの森からも、いずれどこかで脱出しなければなりません。

この「惑いの森」から収穫物を持ち帰り、最終的に業務に落とし込んでいくために必要な作業こそ、**「問い」の設定**です。この自分で立てた問いに、自分で答える。まさしく自問自答のプロセスが、調査の道筋となるのです。

それではこの「問い」はいかに設定すべきなのでしょう？ これについては調査を開始した際に抱いていた、素朴な感情をもとにするといいますが、よく言われる5W1Hの**オープン・クエスチョン**の形にしていくのがおすすめです。例えば、「誰が〇〇公園を多く利用しているのか？」、「地域で行われている△△というイベントはいつから始まったのか？」のような形でしょうか。

もちろん、場合によってはそのきっかけが疑問文の形で現れないこともあるかもしれません。たとえば、「××地区の町会活動に活気があるのは、まちづくりセンターの活動スペースが有効に利用されているからではないか」といった、思いつきから調査が始まるかもしれません。こうした場合も、「なぜ▽▽地区の町会活動は盛んなのか？」、「まちづくりセンターの活動スペースはどのように利用されているのか？」といったように、いったん開かれた「問い」の形に直していくとよいでしょう。

また、調査研究を進めていく過程でより良い「問い」が見つかることもよくあることです。可能であれば、その**「問い」**自体を修正していくのもよいでしょう。

大事なものは、常に関心を「問い」という目に見える形で手元に置いておくことです。「問い」というのは不思議なもので、そこにあるだけで答えたくなる存在です。この「問い」が私たちを“答える”という作業へと方向づけてくれます。この「問い」に答えられたときこそが、「惑いの森」から脱出できたときにほかなりません。「問い」はいわばこの「惑いの森」を通り抜けるためのお守りです。おびたしいデータの中から有用なものを選び出し、業務につなげていくためにも、常に身に付けておきたいものです。



自治体シンクタンク研究交流会議報告 in熊本

次長 大谷 昇 主任研究員 堀江 博昭 研究員 戸畑 粧子



先日11/6(木)～11/7(金)に熊本市で開催された「自治体シンクタンク研究交流会議」に大谷・堀江・戸畑の3名で参加しました。この会議は、全国各地の自治体シンクタンク関係者が集まり、共通課題等の議論を通じてネットワークを形成することを目的にしており、今回の大会では13団体(全26名)と交流することができました。

今年のテーマは『ロジックモデルの導入と実践における自治体シンクタンクの役割』で、1日目の基調講演では、(株)日本総合研究所理事の山田英司氏から「EMPM推進・ロジックモデル導入における自治体シンクタンクの役割」を講演いただき、各自治体で広がりを見せている基本計画におけるEBPMの導入や、官民連携の共通言語となるロジックモデルの策定に際し、自治体シンクタンクには「中立性」が必要であることを再認識しました。

また、2日間に掛けて行われたワークショップではそれぞれのテーマについて、参加者同士でロジックモデルを作成し、発表を行いました。

自治体シンクタンク職員同士の率直な意見交換の場となり、大変有意義な時間となりました。

全国の自治体シンクタンク関係者と交流する機会や取り組みを対面で共有する機会は限られているため、他自治体の取り組みを知ることでできる貴重な機会となりました。



せたがや自治政策研究所ライブラリーを公開しました！

研究員 内海 大輔



せた研では、行政職員の業務に役立つ書籍を収集・購入し、研究に活用しています。これらの蔵書は庁内職員に貸し出しており、このたび、Power Appsを用いた蔵書貸出システムを公開しました！

このシステムは、蔵書の一覧をより視覚的に確認できるだけでなく、メールや電話をすることなくせた研の蔵書を借りることができます。

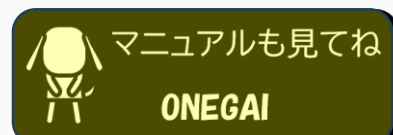
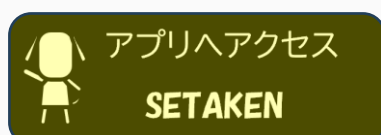
どうぞ皆さんご活用ください！

キーワード:	書籍名、著者名、キーワード等を入力してください
	これからの地方自治の教科書【7冊あり】 貸出可能 著者: 大森 彌、大杉 寛 出版社: 第一法規株式会社 発行年: 2019 返却予定日: 貸出申請
	地域力の時代-絆がつくる幸福な地域社会-【2冊あり】 貸出可能 著者: 公益財団法人 荒川区自治総合研究所 出版社: 三省堂 発行年: 2012 返却予定日: 貸出申請
	英・独・仏における「近隣政府」と日本の近隣自治 貸出可能 著者: 公益財団法人 日本都市センター 出版社: 公益財団法人 日本都市センター 貸出申請

せたがや自治政策研究所 蔵書管理貸出システム	
書籍名	著者名など
これからの地方自治の教科書【7冊あり】	大森 彌、大杉 寛
出版社など	発行年
第一法規株式会社	2019
ステータス	貸出者
貸出可能	
申請	

500冊以上の蔵書を保管！

シンプルなUIにより直感的に操作が可能！



JOIN US!!

令和7年度 せたがや自治政策研究所 研究活動報告会開催！ 令和8年1月20日(火)13:30～17:00@教育総合センター

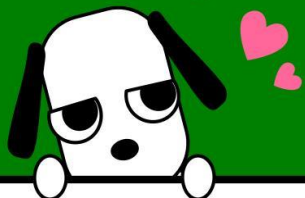


令和7年度 せたがや自治政策研究所 研究活動報告会

参加してみたいキモチを カタチにしよう

—ともに考える地域参加のデザイン—

せたがや自治政策研究所
マスコット
せたけん



参加無料
先着40名

プログラム(詳細は次ページ)

せたがや自治政策研究所の研究発表

【コメンテーター(教授は五十音順)】

浅川 達人 氏(早稲田大学人間科学学術院教授)

内海 麻利 氏(駒澤大学法学部政治学科教授)

祐成 保志 氏(東京大学大学院人文社会系研究科教授)

原田 謙 氏(実践女子大学人間社会学部人間社会学科教授)

保坂 展人(世田谷区長)

【コーディネーター】

大杉 寛(せたがや自治政策研究所所長/東京都立大学法学部教授)

グループワーク

参加者とコメンテーターで意見交換

令和8年1月20日(火)13:30～17:00(開場13:00)

世田谷区教育総合センター1階 研修室「たいよう」

〒154-0023 東京都世田谷区若林5-38-1

※駐車場はありません。公共交通機関にてご来場ください。

※手話通訳あり(要予約)

令和7年11月28日(金)17時まで申込受付

TEL:03-6453-1543

FAX:03-6453-1534

①イベント名、②氏名(ふりがな)、③ご住所、
④電話番号、⑤メールアドレス、⑥年齢
をお知らせください。

申込は電話・
FAX・二次元
コードから



主 催:せたがや自治政策研究所 (世田谷区政策経営部政策研究・調査課)

第1部

5分 研究所概要説明

せたがや自治政策研究所 研究活動報告

「地域生活とコミュニティに関する調査2024」分析結果

40分

- コミュニティモラルに関する設問の回答における地域間比較
- 2009年実施の同調査との比較
- 地域活動に参加したいけど実際には参加していない層の分析

45分

コメンテーターによる講評・質疑

第2部

グループワーク

「地域活動に参加したいという思いを持ちながらも参加していない人たちが、実際に地域活動に参加するようになるために、どんな仕組みや工夫が考えられるか」について、コメンテーター含め参加者同士で意見交換

65分

- 上記議題の課題設定(20分)
- 課題に対する解決策(20分)
- ポスターセッション(20分)

30分

コメンテーターによるグループワークまとめ・総評

10分

区長あいさつ・諸連絡

お申込みはこちらをクリック！
(一般の方もお申込みいただけます)



せた研ゼミを開催します！(庁内職員用)

テーマ

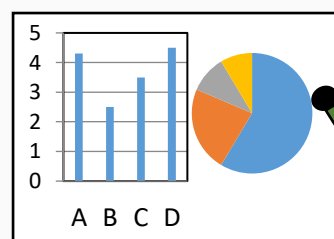
ゼロから始める統計分析～クロス集計とその結果の分析方法～

日時

令和7年12月1日(月) 13時30分～17時00分

講師

西田 祐志郎(せたがや自治政策研究所 研究員)



せたがや自治政策研究所では、学術的な発信や政策形成の基盤づくりを目的として、学術機関誌『都市社会研究』を毎年刊行しています。各号では、所内の研究内容やその時々为社会現象に沿った特集テーマを設定し、専門分野の有識者にご執筆をお願いしています。

特集テーマは、研究所と編集委員会で毎年決定していますが、庁内の関心やニーズを把握し、今後のテーマ選定に活かしたいと考えています。そこで今回、『都市社会研究』の特集テーマに関するご意見を募集します！

みなさんが考える「都市社会研究で取り上げたい特集テーマ」をぜひお聞かせください。

【参考】これまでの特集テーマ

回答はコチラ



- NO. 1 都市社会における自治と協働
- NO. 2 地域資源の発見と活用
- NO. 3 新しい公共性と市民の役割 ——都市型ガバナンスの探求——
- NO. 4 超高齢少子社会の家族と地域
(緊急特集)東日本大震災と復興活動をめぐる諸問題
- NO. 5 今後の基礎的自治体のあり方と役割 ——基本構想の策定に向けて——
- NO. 6 地域活性化と大学
- NO. 7 次世代に配慮した地域環境の創造 ——循環型社会の実現に向けて——
- NO. 8 人口減少社会における大都市と地方
- NO. 9 現代都市における家族の困難
- NO. 10 ダイバーシティと共生社会
- NO. 11 参加型行政の歩みとまちづくり
- NO. 12 住宅都市のデザインと環境
- NO. 13 これからの自治体経営とプラットフォームの構築
- NO. 14 都市とレジリエンス ——コロナ禍の市民生活
- NO. 15 EBPMと自治体計画
- NO. 16 現代都市における孤独・孤立と居場所・つながり
- NO. 17 シビックプライドとまちづくり

🔔 読者アンケートにご協力をお願いいたします。
一般の方も回答いただけます！

回答はコチラ

